

米国San Luis Aviation社の株式取得（子会社化）を完了

～北米の公共安全市場を中心とする「ハイブリッド領域」に本格参入し、無線システム事業の成長を加速～

株式会社JVCケンウッドは、2025年10月8日付の報道発表のとおり、IP無線事業を展開する米国カリフォルニア州のSan Luis Aviation, Inc.（以下、「SLA社」）に関して、関係当局の許認可を含む手続きを2026年7月2日（現地時間7月1日）までに完了し、同社の発行済株式の100%を取得して連結子会社化しました（以下、「本子会社化」）。

1. 本子会社化の背景および目的

当社は、新たに策定した中期経営計画「VISION2030」（2026年5月1日報道発表）における事業ポートフォリオ最適化の一環として、セーフティ&セキュリティ分野の中核である無線システム事業の「ナローバンド領域」を成長牽引事業、「ハイブリッド領域」を期待・挑戦領域として位置付けています。本子会社を通じてハイブリッド領域へ本格参入し、無線システム事業全体の中長期的な成長を加速させていきます。

ハイブリッド領域は、ナローバンド（業務用無線）およびブロードバンド通信網（4G/5G、Wi-Fi）の双方を活用することで通信エリアを拡張し、遠隔地や通信困難な地理環境における通信サービスを補完・強化する領域です。また、画像・動画を含むマルチメディアメッセージ機能、位置情報の追跡・可視化などの機能を付加した無線通信ソリューションを中核としており、現場における利便性や信頼性の向上に寄与します。こうした特長を背景に、ハイブリッド領域は政府機関をはじめとする公共安全市場や民間市場において、今後の市場拡大が見込まれています。

2. SLA社の概要、および同社と当社の取り組み

SLA社は、コミュニケーション、コラボレーション、および相互運用性をコンセプトとする、ブロードバンド通信網を活用したIP無線サービス「ESChat」を提供しています。同サービスは、安全なPTT（Push-to-Talk）通信を、複数の通信キャリアの回線に加え、Wi-Fiや衛星通信を利用した接続環境上でも利用可能であり、広範な通信環境における相互運用を実現しています。さらに、マルチメディアメッセージ機能や共通状況認識（Common Operating Picture: COP）機能を通じて、組織内外の連携や状況認識の共有を可能とします。また、サイバーセキュリティおよび相互運用性を強化した政府向けソリューション「ESChat for Government」を提供しており、FedRAMP認証^{※1}、GovRAMPTM認証^{※2}、TX-RAMP認証^{※3}を取得しています。これらの認証により、政府機関は既存のセキュリティ評価結果を活用することで、検証負担を軽減し、ソリューションを迅速かつ効率的に導入できます。あわせて、FirstNet CertifiedTM^{※4}を取得しているほか、米国国防情報システム局（DISA）からの承認を受けています。



当社は本子会社化に先駆けて、2026年3月より、SLA社の技術を当社が北米で展開する業務用無線機「Viking」シリーズに組み込んだブロードバンド連携ソリューション「Viking Connect」の提供を開始しています。同ソリューションは通信状況に応じたLMRとブロードバンドの自動切り替え、運用者による優先設定、および管理者による無線周波数の切り替えを可能にします。これにより、現場と指令拠点間におけるシームレスで安定的なPTT通信環境を提供します。

※1：Federal Risk and Authorization Management Program. 米国連邦政府向けクラウドサービスの調達要件に関する認証制度。米国連邦機関がクラウドサービスを利用する際は、FedRAMP認証の取得が必要とされます。

※2：Government Risk and Authorization Management Program. 米国の州政府・地方自治体向けクラウドサービスを対象としたセキュリティ認証制度。

※3：Texas Risk and Authorization Management Program. 米国テキサス州の政府機関向けクラウドサービスを対象としたセキュリティ認証制度。

※4：米国の公共安全機関向けブロードバンド通信ネットワーク「FirstNet」での利用に適合することを認証する制度。

3. 今後の展開

当社は、本子会社化により、SLA社が事業展開しているIP無線サービス「ESChat」を当社の製品・サービス群に統合するとともにラインアップを拡充し、北米を中心とするハイブリッド領域に本格参入することで、さらなる事業機会の拡大を図っていきます。今後も当社グループは、無線システムによる安定した通信手段の提供を通じて、「安心・安全」な社会の実現に貢献するとともに、企業価値の向上に取り組んでいきます。

4. 業績への影響

本子会社化による当社の業績への影響は、2027年3月期連結業績予想（2026年5月1日公表）に織り込み済みです。

<関連リンク> Viking Connect（英文サイト）：<https://eschat.com/viking-connect/>

<商標について>

- ・「Viking」は北米で事業展開している当社のグループ会社であるE.F. Johnson Company（EF Johnson Technologies, Inc.の子会社）の米国における商標または登録商標です。
- ・「ESChat」は、San Luis Aviation, Inc.の商標または米国における登録商標です。
- ・「FedRAMP」は、United States General Services Administration の商標または米国における登録商標です。
- ・「Wi-Fi」は、Wi-Fi Alliance の商標または登録商標です。
- ・その他、記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

本資料の内容は発表時のものです。最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。

www.jvckenwood.com

ハイブリッド領域への本格参入による 無線システム事業の成長加速について

株式会社JVCケンウッド

2026年7月7日

「ESChat」を手掛けるSan Luis Aviation社の子会社化完了 (2026年7月3日付)

北米を中心とするIP無線サービスで高いシェアを誇る「ESChat」を取り込む

San Luis Aviation, Inc.

会社概要

本社所在地：米国カリフォルニア州

主な事業内容：グローバルにIP無線サービス「ESChat」を提供

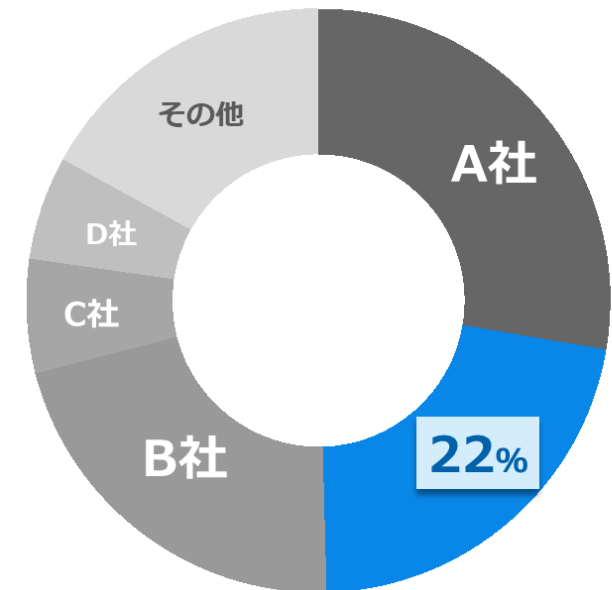
- ✓ 「ESChat」は、米国政府・公共安全市場への導入要件となる主要認証を取得し、米国国防情報システム局（DISA）からの承認を受けている
- ✓ グローバル市場で70万以上のユーザーを有し、IP無線領域で高いシェアを確保している
- ✓ 業務用無線との相互通話が可能、当社製品との親和性が高い

IP無線サービス「ESChat」と
KENWOODブランドの無線機端末（右端）



IP無線サービスのグローバル市場シェア

(2023年、日本は含まず)



依拠：OMDIA reports 「Critical Communications MCX PTTToC 2024 Analysis」をもとに当社推計

ESChatを梃子としたチャンネルの拡大

JVCKENWOOD



新たなチャンネルの拡大

連邦政府ビジネス

- SLA社の連邦政府との接点やESChatのブランド力を梃子に、連邦政府市場にリーチ
- 当社無線端末、システム販売の機会創出

[顧客例]

United States Drug Enforcement Administration
(DEA: 米国麻薬取締局)

従来のチャンネルでの販売拡大

システム案件ビジネス

- 近年増加しているIP無線対応が要件となっている入札案件への応札件数の増加
- ワンストップソリューションによる受注率の向上

無線端末ビジネス

- IP無線事業の自社取り込みによるハイブリッド無線端末の開発強化と本格参入



無線システム事業におけるハイブリッド領域とは

業務用無線が培った“確実な音声通信”を土台に、データ・映像で現場の利便性を向上

ナローバンド（業務用無線）



確実な音声通信

- 災害時にも途切れない自営網
- コンマ秒単位の低遅延通話
- PTTボタンで1対多の即時通話
- 暗号化による高い秘話性

ハイブリッド

ナローバンド+ブロードバンド 両方の強みを1つに統合

- 1システムで、音声・データを統合
- 業務用無線の信頼性+LTEの利便性
- セキュアかつ柔軟な通信基盤
- ブロードバンドとナローバンドの相互接続

ブロードバンド（IP無線 / LTE・5G）

データ・映像の活用

- 高速大容量通信（動画・GPSなど）
- スマートフォンで誰でも利用可能
- アプリによる多機能化
- 商用回線に依存（災害時リスク）



ユーザーメリット

- 1 判断が速くなる**
音声指令に加え、映像・位置情報など“状況データ”をリアルタイムに共有。情報格差を解消。
- 2 通信が止まりにくくなる**
自営網と商用回線を組み合わせることで、通信手段の冗長性を確保。有事にも途切れにくい。
- 3 現場の業務が効率化する**
音声通信+aの多機能性と最適なデバイスの組み合わせで、現場の業務をスマートに支援。

カウンティ消防局での想定使用シーン（一例）



大規模山火事・山岳地帯での救援対応

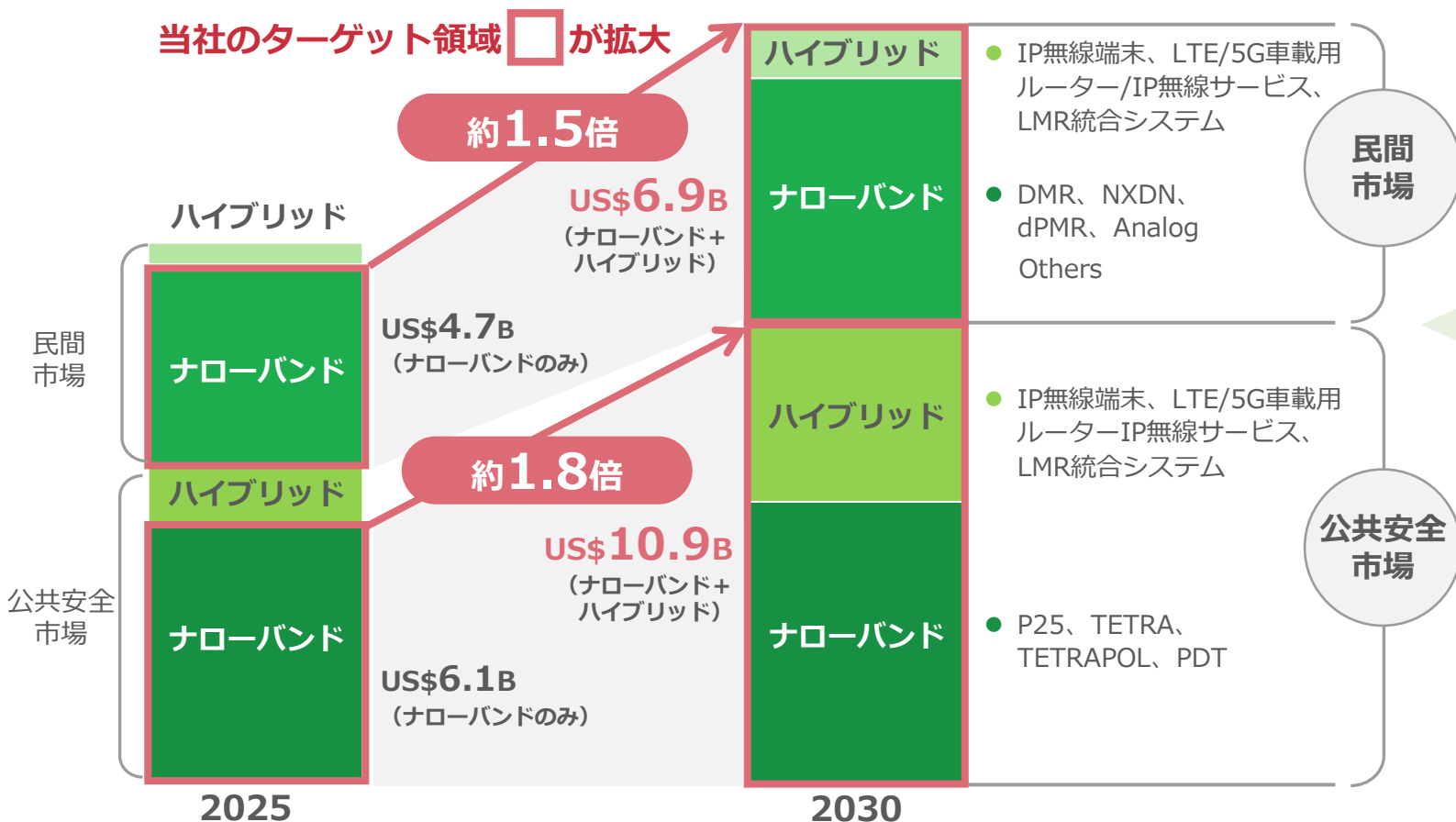
- 山間部や峡谷ではLTEが不安定となり、音声指令・最低限のデータ通信はナローバンドで継続
- 平野部ではLTEで車両位置、部隊ステータス、現場テキスト情報をリアルタイム共有

ナローバンドとブロードバンドの通信状況に応じてシームレスに最適な回線を選択

ハイブリッド領域への参入による市場ポテンシャルの拡がり

ハイブリッド領域は公共安全市場と民間市場それぞれ存在し、今後の拡大が見込まれる

■グローバル業務用無線 市場規模予測



なぜハイブリッド領域が拡大するのか

▶ ナローバンド市場は安定継続

音声主体の市場は社会インフラとして維持。ハイブリッドが"上乘せ"される形で全体が成長。

▶ 入札要件の変化

公共安全・民間ともに、ハイブリッド/ブロードバンド対応が入札の要件に含まれる案件が増加。

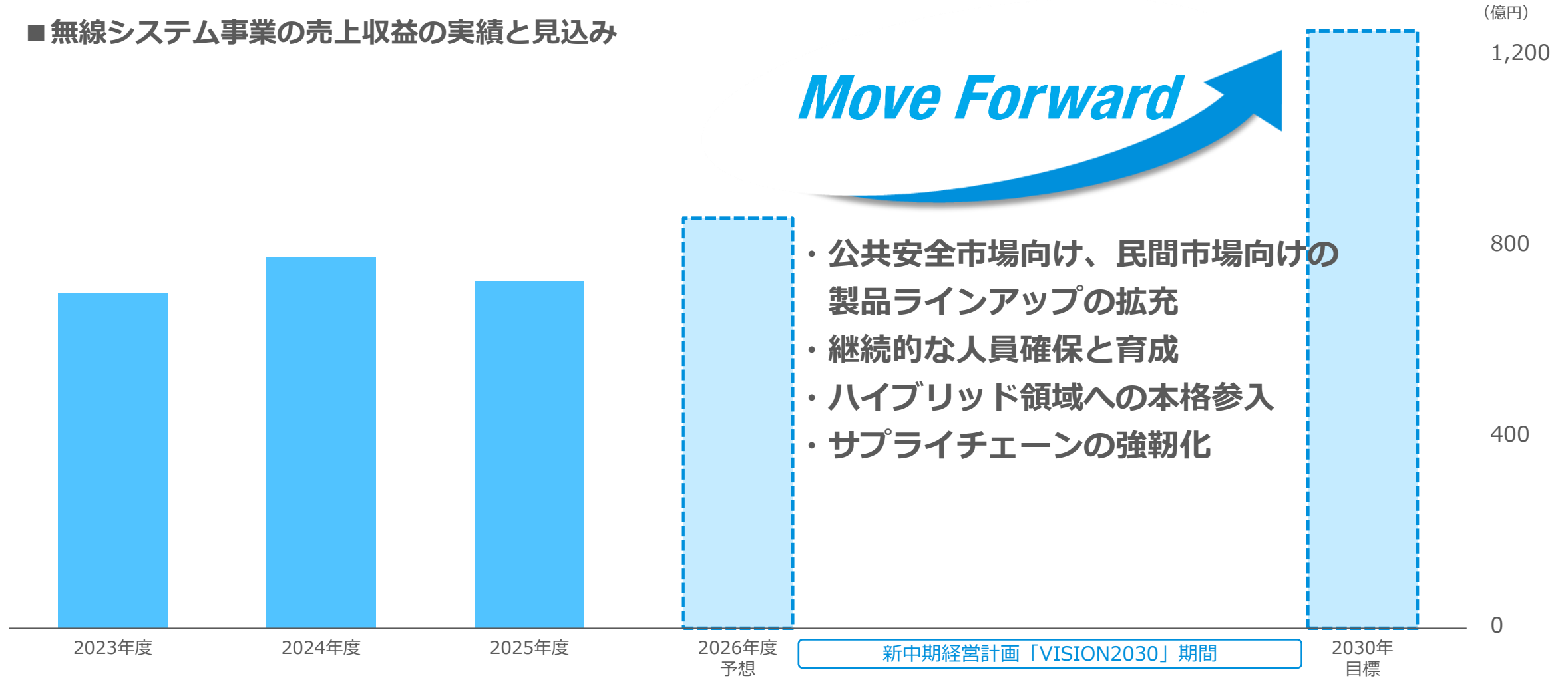
▶ 端末・サービス技術の進化

1台でLMR+LTE/5G両対応が可能な端末や、IP無線サービスの成熟により実用化が加速。

成長投資による事業基盤強化で確かな成長の実現

人員増強や製品ラインアップの拡充への成長投資を継続的に実行

■ 無線システム事業の売上収益の実績と見込み





このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらすおそれがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1) 主要市場（日本、米州、欧州およびアジアなど）の経済状況および製品需給の急激な変動、(2) 国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3) ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4) 資本市場における相場の大幅な変動、(5) 急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。